



上山小学校「風のたより」

令和6年8月9日（金） 校長 有谷孝彦



学校経営目標：ふるさとを愛し、
自らの未来を切り拓く児童を育成する



「語り継ぐこと」の大切さ！

1945年8月6日広島に、同年8月9日長崎に原子爆弾が投下されました。第2次世界大戦終戦後79年を迎えたこの夏、いまでもって戦争をしている国があることを悲しく、苦しく思います。この長い年月が経過しても戦争の愚かさを理解していない人類がいます。幸いにして我が国は日本国憲法で戦争放棄を明言しております。一日も早く全世界から戦争がなくなることを願うばかりです。



私の父は高校生まで満州国で生まれ育ちました。祖父が満州鉄道で働いていましたので直接戦争は体験してはおりません。しかし、終戦後、ロシア軍に追われ日本に引き揚げてくる時の話をよくしていました。兄弟が亡くなったこと、針尾（佐世保市）に高砂丸で上陸したこと、故郷である鹿児島県の甕島に命からがら辿り着いたことなどを話していました。母からもたくさんの戦時中の話を聞かせてもらいました。先日は、「被爆二世の会」の皆さんから長崎原爆投下日8月9日からの「諫早」の様子を紙芝居でお話していただきました。大変興味深くお聞かせいただきました。私たちがこれから大切にしていかなければならないことは、「後世に語り継ぐこと」だと確信しました。小さな「平和の積み重ね」と「語り継ぐこと」を継続していきましょう。

蝉のおべへ

金子みすゞ

母さま、
裏の木かげに、
蝉のおべへが
ありました。

蝉も暑くて
脱いだのよ、
脱いで、忘れて
行ったのよ。

晩になったら
さむかろに、
どこへ届けて
やりましょか。



©2014. 金子みすゞ

自分さえよければそれでいいの？

「平和の祭典」と言われるオリンピックがパリで開催されております。国境を越えた競技であるはずの大会に違和感を覚えているのは私だけでしょうか。国同士の紛争があるために出場できない国々があります。また、選手や審判に対する誹謗中傷が相次いでおります。敗戦の要因を本人以外に求める風潮もあります。確かに結果について腑に落ちないことはあるかもしれませんが、行き過ぎの感は否めません。このような感情は人間だからあるのは当たり前だと思いますし、実は私にも上山小最良（ひいき）がすごくあります。しかし、相手を蔑んで（さげすんで）自分を上げるようなことは絶対にしてはいけないことだと思います。そんなに単純なことではないと思いますが、このことが大きくなって戦争へと陥っていくのだと思います。こんな時にいつも思い浮かべる歌があります。ご存知の方は少ないと思いますが、THE YELLOW MONKEYの「JAM」という歌詞の一部に「外国で飛行機が落ちました。ニュースキャスターは嬉しそうに『乗客に日本人はいませんでした』『いませんでした』『いませんでした』」と連呼するところです。これから世界が大きく変わっていったとしても、忘れてはならないことを確認する今日にできればと思っています。



心身の健康を！

運転をしていると道路工事があちこちでおこなわれています。ただでさえうだるような暑さの中、日に照らされながら工事をされている作業員や交通整理員の皆さんには頭が下がります。皆さんのおかげで安全が守られています。

夏休みも半分終わりました。終業式に「続けること」に挑戦してみてくださいと子供たちに伝えました。学習もそうですが、



心身の健康のためにできることを続けてください。この写真は中央干拓の19時頃の風景です。ジョギングや広々とした景色は最高ですよ。(*^*)

☆上山小のHPもご覧ください。学校だより（表）の2次元コードをご利用ください。